



SGH News Letter No.1

平成 27 年 9 月 3 日発行 愛媛県立松山東高等学校



● SGH News Letter 発行にあたって (SGH事業課長 渡邊弘安)

この度「SGH News Letter」を発行する運びとなりました。生徒の活躍や事業成果など、ホットな情報を紹介させていただきますので御期待下さい。この SGH 事業を通して、本校は、グローバルリーダーの育成はもちろん、学校における学びの在り方を生徒の主体的・能動的学びへと変えることを目指しています。

● 平成 26 年度 取組のご報告

昨年は SGH としての活動初年度にあたり、すべてが初めての取組となりました。対象となる 1 年生に対し、以下の図に示すとおり、4 つのステップでグローバルな人材育成を目指しました。具体的にはまず、愛媛県人として、そして東高生としてのアイデンティティを醸成し、そのうえで県内企業の取組などを知り、そこから派生して課題研究で自ら考えて問題を発掘し調査する能力を磨き、最終的に成果発表会で課題研究の結果を報告いたしました。また、その他に人数限定ではありましたが、海外フィールドワーク (以下、海外 FW) を開催し、生徒たちにより実践的な経験を提供できたと考えております。



● 平成 27 年度 SGH 関連行事予定

昨年度に引き続き、今年度は以下の行事を予定しております。

1 年生 (361 人)

日付	内 容
4/16	校歌指導 松田直人 教諭
4/23	㈱ヒカリ 味村昭二 氏 講話
4/30	慶應義塾大学商学部教授 佐藤和氏 講話
5/7	松山市内フィールドワーク 坂の上の雲ミュージアム・秋山兄弟生誕地訪問
5/28	県内企業フィールドワーク
6/18	県内企業フィールドワーク報告会(優秀レポート発表)
8/2~6	海外フィールドワーク(台湾・インドネシア)
9/3	海外フィールドワーク報告会
9/17	課題研究 開始(計 13 回 26 時間実施予定)
12/14	1・2 年合同中間発表会 (2 年生が 1 年生に向けて発表を行う)
3/3	1・2 年合同成果発表会

2 年生 (SG コース選択者 79 人)

日付	内 容
4/20	課題研究 開始(計 25 回 50 時間実施予定)
6/1	G 保健講座①
8/17~21	海外フィールドワーク(韓国)
11/2	G 保健講座②
11/11~16	海外フィールドワーク(ドイツ)
12/14	1・2 年生合同中間発表会
12 月下旬	海外フィールドワーク(ウガンダ)
2/1	G 保健講座③
3/3	1・2 年生合同成果発表会



秋山兄弟生家(市内 FW)

住友金属鉱山(県内企業訪問)

● 平成 27 年度 海外での活動(留学・研修) 予定生徒数

今年度は非常に多くの生徒が海外での活動を行います。高校が企画した以外に、いろいろな方や機関から紹介していただく企画が増加し、貴重な経験ができる生徒が増えました。

内 容	訪問先	期 間	学年	人数
修学旅行	ロサンゼルス	2015/5/10~2015/5/15	2	99
日米和親条約締結 160 周年記念行事	ワシントン・ニューヨーク	2015/5/27~2015/6/2	2	1
高校生の留学促進事業(短期派遣)プログラム	ハワイ	2015/7/29~2015/8/12	1・2	10
えひめ高校生ハワイ派遣事業	ハワイ	2015/10/10~2015/10/15	1・2	4
トビタテ!留学 JAPAN	アメリカ ミルトン	2015/7/19~2015/8/8	2	1
	イタリア フィレンツェ	2015/7/27~2015/8/21	2	1
	フランス ニース	2015/7/21~2015/8/3	2	1
海外フィールドワーク	台湾	2015/8/2~2015/8/6	1	8
	ジャカルタ	2015/8/2~2015/8/6	1	7
	韓国	2015/8/17~2015/8/21	2	5
	ドイツ	2015/11/11~2015/11/16	2	5
海外留学	スイス	2015/8/14~2016/7/2	2	1
	ベルギー	2015/8/26~2016/6/30	2	1
	オランダ	2015/8/1~2016/7/31	3	1
	USA(ミシガン州)	2015/7/28~2016/6/21	3	1
	カナダ	2015/7/31~2015/8/11	1	1
	バンクーバー	2015/7/19~2015/8/2	3	1
国連ヨーロッパ本部訪問	スイス	11 月予定	1	1
坊ちゃん海外協力隊	ウガンダ	12 月下旬予定	2	20
第 7 回中国清華大学短期留学	中国	2015/8/1~8/8	2	1

計 170 人

● 海外との交流実績(平成 27 年 8 月現在)

<留学生の受入> 2 人(ノルウェー、スイス)

<大会への参加>

- 海外高校生による日本語スピーチコンテスト
- BSOAP(日韓学術シンポジウム)

<その他交流>

- ドイツ・フライブルク市ブルガー部長
- 海外高校生による俳句体験
- ドイツ・フライブルク市とのインターネット会議
- 第 29 回愛媛国際交流サマースクール

海外FW 実施報告

8月に実施した海外FWの感想や様子をまとめました。

行先	日程	行程	生徒感想
台湾	8/2	高松空港→台湾桃園空港	<ul style="list-style-type: none"> ・外国に進出するためには、その国や地域の習慣、好みに合わせるということが大切なことだと感じた。 ・安全性や環境への配慮など自分達がどこにも負けていないと思えるものは、どこに行っても貫くという姿勢がないと世界では通用しないのだと痛感した。 ・台湾の方々の優しさや、自分達と異なる考え方に触れる中で、日本や日本人の良さもまた実感することができた。 ・今後、グローバルリーダーに成長するためには、英語だけでなく中国語も話せる必要があると思う。今回の台湾での経験をこれからの生活に活かしていきたい。
	8/3	台湾森永製菓・加賀屋旅館 新蓬萊食品工場・三浦鍋炉台北本社訪問 (台北市)	
	8/4	三浦工業新工場・住華科技訪問(台南市)	
	8/5	開南大学訪問・交流会(桃園市)	
	8/6	台湾桃園空港→高松空港	
インドネシア	8/2	松山空港→羽田空港 →成田空港→スカルノ・ハッタ空港	<ul style="list-style-type: none"> ・渋滞、言語の違い、食べ物・水の違い、宗教の違い、価値観の違いなど、実際に体験することでしか得られないものを理解することができた。 ・国全体の勢いを強く感じた。街は高層ビルが立ち並び、人々は自分の生活を豊かにしようと思死に生きていた。しかし、経済の成長についていけない部分もあった。道端のゴミ、インフラの未整備、都市と都市以外の地域の経済格差が目に見える形で分かった。 ・日本人との国民性の違いを実感した。特に時間感覚が日本と大きく違い、予定通りに進まないインフラ整備などの国家プロジェクトにもそのような国民性を感じ取ることができた。 ・世界には、様々な国民性を持った国がある。グローバル化が進む中で、そうした考え方が違う人々と共生していくためには、他国の国民性を知り、受け入れる必要がある。
	8/3	インドネシア住友林業・JETRO事務所訪問 (ジャカルタ)	
	8/4	ボゴール農業大学・附属コルニタ高校訪問 (ボゴール)	
	8/5	PT. MIURA・三菱東京UFJ銀行ジャカルタ支店カラワン出張所・PT. Ihara訪問 (カラワン工業団地)	
	8/6	スカルノ・ハッタ空港→成田空港 →羽田空港→松山空港	
韓国	8/17	松山空港→福岡空港→釜山空港 安東大学着、開会式	<ul style="list-style-type: none"> ・自国の言語が通じないことの困難さをこれほど痛感したことははじめてであった。自分の本当に言いたいことは自分で言うのが一番良いと思うので、英語を自由に操る力を身につけたい。 ・実際に現地を訪れ様々なものに五感で触れる大切さを知った。 ・韓国の学生は、短時間でインパクトの強いプレゼン資料を作っていた。このようなICT活用能力は必要不可欠である。 ・人との繋がりを大切にしていきたい。
	8/18	安東大学にて日韓学術シンポジウム	
	8/19	安東探訪(陶山書院、河回村)、午後釜山へ移動、班別セミナー	
	8/20	韓国三浦工業(株)釜山支店訪問、閉会式	
	8/21	釜山空港→福岡空港→松山空港	



企業からの聞き取り調査(台湾)



コルニタ高校での交流会(インドネシア)



日韓学術シンポジウム(韓国)



開南大学でのプレゼン(台湾)



自動車部品工場の見学(インドネシア)



韓国三浦工業釜山支店(韓国)

● 課題研究 担当講師および研究テーマ
2年生 (4月開始)

No	氏名	所属	課題研究テーマ
1	佐藤 和	慶心義塾大学商学部	愛媛の企業がグローバル化を進めるための課題とその克服方法について
2	土屋 由香	愛媛大学法文学部	国際社会と多民族共生
3	隅田 学	愛媛大学教育学部	海外の生徒達との協働学習プロジェクトに参加しよう —ESD Rice Project—
4	竹下 浩子		Education for Sustainable Development Bildung für nachhaltige Entwicklung
5	岡本 威明		多民族国家(マレーシア)と日本における主観的幸福感に関する研究
6	榊原 正幸	愛媛大学大学院理工学研究科	インドネシアにおける水銀汚染問題と解決への道筋
7	東山 繁樹	愛媛大学医学系研究科 プロテオサイエンスセンター	がん患者に優しい治療方法の開発に挑む
8	飯村 忠浩		人体を構成する細胞と組織の基本構造を先進の顕微鏡で観察・理解する
9	鳥居 本美		マラリアワクチン開発に向けての課題と挑戦
10	全 邦釘	愛媛大学大学院理工学研究科	持続可能な社会に貢献するインフラ、およびその維持管理に関する研究
11	菅原 卓也	愛媛大学農学部	食品の保健機能
12	嶋村 美和	元京都大学東南アジア研究所研究員	見知らぬ世界に飛び込んでみよう ～はじめの一歩を踏み出すために～

1年生 (9月開始)

No	氏名	所属	課題研究テーマ
1	榎林 建司	愛媛大学法文学部	国際社会の人権問題 ～難民問題を中心として～
2	石坂 晋哉		日本と南アジアの交流の歴史
3	今泉志奈子		日・英語間の翻訳を通して探る英語らしさ・日本語らしさのありか ～今治バリエーションバイリンガル化プロジェクト～
4	近廣 昌志	愛媛大学教育学部	グローバル企業の運営展開から「国境」を考える
5	張 貴民		グローバル時代における共生のシステムを考える
6	鷲原 進		グローバル化している社会現象のつながりを探ろう
7	魁生由美子		高校生のための韓国入門—ポスト韓流時代の日本と韓国—
8	川瀬久美子		アジアの海岸の開発と環境
9	福富 彩子		グローバル社会における音楽活動～鍵盤楽器を中心に～
10	中山 晃	愛媛大学教育・学生支援機構 英語教育センター	グローバル・コミュニケーション・スキル (Global Communication Skills)
11	松浦 真也	愛媛大学大学院理工学研究科	データで比べるスウェーデンと日本
12	前原 常弘		核融合とプラズマ
13	小林 直人	愛媛大学大学院医学系研究科 医学専攻 医学教育学講座	最新の医学・医療と医学教育について考える ～グローバル・スタンダードな医学・医療と医学教育とは?～
14	菅原 卓也	愛媛大学農学部応用生命化学	食品の保健機能に関する研究
15	羽藤 堅治	愛媛大学農学部施設生産システム学	知能的食料生産システムの創出
16	治多 伸介	愛媛大学農学部地域環境工学	安心・安全で持続可能な水環境の創出
17	小林 修	愛媛大学国際連携推進機構 アジア・アフリカ交流センター	アジア・アフリカに共有する持続可能なライフスタイルの探求
18	嶋村 美和	元京都大学東南アジア研究所研究員	愛媛の国際化を考える
19	張 蘭雲	元東京大学大学院理学系研究科 地質学研究員	身近なことからグローバル化を考える

● おわりに

障害となる壁を乗り越えるとその先にはまた壁が立ちはだかっている、それを越えるとさらに向こうに壁がある。越えても、越えても、ずっとずっと壁がある…これは、私たちがこの事業を実施していく中での実感です。終わらない壁登りに疲れたり、壁の大きさに衝撃を受けたりする毎日が続いていますが、今までに越えられなかった壁はありません。

たくさんの大学の先生や職員、そして企業関係者の方の御協力とそこから得られる貴重な情報の数々。わずかな縁を頼りに海外在住の方を紹介していただき、そこへ飛び込んで行って受けた大きな親切。こちらの無理なお願いを何とかしてくれる校内の全教職員。いろいろな事業に取り組む生徒のやる気と保護者の理解。これらすべてが越えられない壁がない要因であり、一つ一つの事業を終えた際、また、海外F/Wや留学から帰国した際の生徒の目の輝きが私たちの原動力になっています。

日々様子はHPでお知らせしています。また、7月より英語版も運用を開始いたしました。これからも松山東高校のSGH事業と生徒の輝きを日本及び世界に発信して参ります。

愛媛県立松山東高等学校

〒790-8521
愛媛県松山市持田町2-2-12
TEL: 089 (943) 0187
FAX: 089 (934) 5766

学校HP

<http://matsuyamahigashi-h.esnet.ed.jp/cms/>
英語版

<http://matsuyamahigashi-sgh.esnet.ed.jp/>

発行元: 愛媛県立松山東高等学校 SGH 事業課